

長野市公文書館便り

●発行日：平成26年(2014年)7月29日 ●発行：長野市公文書館

©NaganoCityArchives

複製資料「松代真田家文書」

江戸時代の長野地域の
歴史を知る基本資料
—20年にわたり史料撮影—

長野市公文書館では前身組織である長野市誌編さん室時代より「松代真田家文書」(東京都立川市・国立国文学研究資料館所蔵)を長期間にわたってマイクロフィルムに撮影してきました。



立川市にある国立国文学研究資料館

「松代真田家文書」は松代藩主であった真田家に関係した史料群のことです。真田家史料・藩庁史料からなり、大名の文書史料としては日本有数で、国立国文学研究資料館のほか松代町の真田宝物館等が所蔵しています。長野地域の歴史を語る貴重な史料であることから、当館では国文学研究資料館にご協力いただきフィルム撮影を続けています。撮影したマイクロフィルムは画像データとしてコンピュータにデジタル保存する一方、プリントし一般公開しています。撮影は年2回(延べ8日)で、カット数にして約15,000をマイクロフィルムに収めており、これまでの累計で200,000カット以上となっています。

複製資料「松代真田家文書」(当館所蔵)

マイクロフィルムに撮影された真田家文書を1カットずつ見やすいように、文字の濃さを調整しA5版にプリントしたものです。閲覧申請して頂ければ、すぐに閲覧出来ます。



ます。書状類などの史料は1点1カットですが、日記等の綴りでは1点(1冊)が数百カットになるものもあります。公開史料は「家老日記」、「郡方日記」、「勘定所元々日記」などの日記類をはじめ、約3,500点となっています。



史料の撮影風景。貴重な史料で、かつ破損の激しいものもあるため細心の注意を払って作業を進めています。

なぜマイクロフィルムなの？

デジタルカメラ全盛期にアナログなフィルム撮影は時代に逆行しているのではないと思われるかもしれませんが、しかしデジタル機器はハード・ソフトウェアとも日進月歩で変化します。20年後、50年後に今の機器が使用できるか分かりません。記録媒体がフロッピーからMO、CD等に変わるなどデジタル環境が進化(変化)するたびに新しい対応を余儀なくされます。その点フィルムは、画素数換算しても記録媒体としてデジタルカメラに比べて勝っているのみならず、温度や湿度等の保管環境を適切に管理すれば物理的には数百年単位で保存することが可能だと言われています。



松代真田家文書(国立国文学研究資料館所蔵) 恩田木工民親が主導した松代藩の宝暦改革(藩政改革)で実施された月割り上納制について記した「郡方日記」。



〔岡山県倉敷市議会議員の視察〕

5月15日 平成23年に「公文書管理法」が施行され、多くの自治体が公文書を管理・保管する施設の開設に向けて取り組み始めています。平成19年に開館した当館へは先進施設として全国各地の自治体から視察・見学に来ますが、5月には岡山県倉敷市の議会関係者15人が来館しました。



保存方法等を説明する当館専門主事。倉敷市議の皆さんは写真やメモをとるなど、熱心に見学していました。

倉敷市でも公文書館機能を有する施設を立ち上げる予定とのことで、倉敷市議の皆さんは当館の施設概要や所蔵資料、整理・保管方法、レファレンス対応等、公文書館の運営全般についての説明を熱心に聞いていました。

〔資料調査・移管作業〕

4月8日 昨年5月から調査を続けてきた旧信州新町役場文書のうち町史編さん資料185点を移管して、保存整理を行い一般公開しました。

4月23日 豊野支所に保管されていた旧豊野町役場文書を移管しました。1,000点を超える資料は段ボール箱100個以上あり、職員5人で2tトラックに積み込む大作業となりました。

5月28日 戸隠支所に保管してあった整理して公開済みの旧戸隠村役場文書を当館に移しました。

6月12日 信州新町支所に職員4人で出向き、旧信州新町役場文書の調査を行いました。

〔市役所非現用文書の移管〕

4月16日~17日 平成25年度末で保存年限が過ぎ廃棄となる長野市役所非現用文書のうち、歴史資料として重要な公文書を移管しました。今年度中に整理・公開する予定です。

〔全国公文書館長会議〕

6月9日~10日 全国公文書館長会議が札幌市で行われ、当館からも出席しました。

訂正とお詫び 前号一面記事文中において社掌氏名に誤りがありました。正しくは「竹田幹司」でした。訂正お詫びいたします。

長野市公文書館

所在地 長野市箱清水一丁目3-8 長野市城山分室内(〒380-0801)
電話 026-232-8050 FAX 026-232-8051
HP <http://www.city.nagano.nagano.jp/naganoarchives/>
又は [長野市公文書館](#) で検索
開館時間 午前9時~午後5時(閲覧申込みは午後4時30分まで)
休館日 土曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日・年末年始(12月29日~1月3日)

新たに公開した資料です

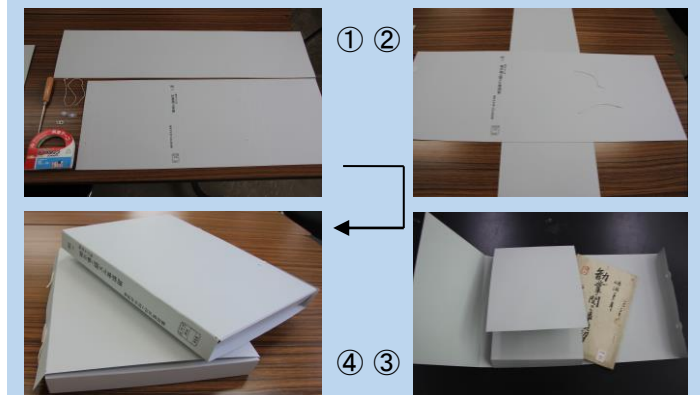
- ・赤澤康寛家文書 (古文書 349点)
- ・南部図書館文書 1次~3次 (古文書・和綴じ本 計1,231点)
- ・信州新町町史編さん資料 (古文書 185点)
- ・西条村役場文書 3次 (旧役場文書 57点)
- ・信州新町役場文書 3次 (旧役場文書 226点)



信州新町町史編さん資料「新案点取雙六 世界周遊競争 博文館発行」(資料番号121-69)

資料保存作業(1)「資料保存箱」

今号から当館で行っている保存作業を皆さんに知って頂きたいと考え、一つずつ紹介していきます。今回は資料保存のために重要な役割を担っている箱作りについてです。



資料保存の際に使用している保存箱の製作工程を①~④の順に説明します。箱の大きさはB5、A4サイズの2種類で厚さは3、4、6、8、10cmの5種類があります。

まず、①どのサイズに収まるか資料を測って決める。(写真はB5、3cm)。サイズにあった縦・横紙を一枚ずつ用意する。縦・横紙の両方に資料のサイズ、厚さが収まるように折り目を付ける。②横紙に穴を開け、ボタンと風糸を通し、縦紙と貼り合わせるために両面テープを貼り付けておく。そして、2枚を十字に貼り合わせる。③折り目に沿って折り資料を詰め、ボタンに風糸を巻き付けて綴じれば、④完成。

この保存箱は資料を長く保存することが目的で、様々な工夫を凝らしています。酸化による資料の腐敗を防ぐために、中性紙を用い、ボタンはプラスチック、糸は風糸を使用しています。金属類は錆で資料が傷んでしまうため一切使用していません。また、箱に入れることで埃や害虫から資料を守るなど、良い状態で閲覧できるように努めています。



こんなときにはご相談ください。

- ・古い土蔵などを取り壊すので、所蔵資料を寄贈・寄託したい。
- ・所蔵資料の保存・活用を図り、後世に伝えたい。